

で、自転車利用者は乗車用ヘルメットをかぶる等、安全上の措置を講ずるよう努めるものとするという規定があります。現在、山形県内で独自で条例を制定している市町村はございませんが、長井市としましては、自転車のヘルメット着用をはじめ、自転車の安全で適正な利用について市民の意識を醸成するために、長井市地域安全推進協議会というのがございます。これと長井市交通安全推進協議会、いわゆる安協ですね、などでご意見を賜りながらといいますか、もう今年の総会でいろいろ意見などもいただいておりますので、なかなかこれが徹底しないということで、やはりいざというとき事故に遭ったりしたときに、ヘルメットをかぶっている、かぶっていないでは、本当にけがとか命に関わる部分では大変ヘルメットは有効でありますので、条例制定について前向きに検討しております、できますれば今年度中に議会に上程したいと考えているところでございます。

一方で、ヘルメットの購入の補助についてですが、もう既に4月からこれが始まっておりまして、やっぱり意識の高い人は大人でも、あるいはご年配の方なども、ヘルメットをきちんとかぶって自転車を運転されてる方が増えております。そういった意味で、これから補助制度を設けるといのは、ちょっとタイミングを逸するのかなと考えておりまして、既にヘルメットを購入されている市民の方との公平性を考えると、なかなか難しいのかなと思っております。

そこで、補助制度ではないのですが、市民の方にヘルメットの購入を促す共同購入、かつて西置賜行政組合消防本部のほうでご協力いただいて、地域の消防団と、あと地区長連合会さんにご協力いただいて、室内用の火災報知機を共同購入して市内の方に買っていただいて、設置についても消防団のほうにご協力いただいたりとかした経過がございますけれども、このような形で市民の方にヘルメットの購入を促す共同

購入という形態が取れないか、現在検討しているところでございます。

ただ、課題として、ヘルメットを実際に身につけてみると、デザインやサイズ感が自分に合っているかどうか分からないといったこともありまして、少し時間をかけて検討しなければならないと考えているところでございます。

○鈴木富美子議長 13番、平 進介議員。

○13番 平 進介議員 条例の制定につきましても、安全推進協議会、それから安協等と協議をしながら、今年度あたり条例制定できないか検討していくということで、前向きに答弁いただきました。

それからヘルメットについても、共同購入について検討いただいているということで、大変ありがたいことだと思っております。このたびは、ヘルメット着用については努力義務ということではありますが、いずれ義務化になるのではないかと思っております。ぜひ市民の皆様の安全を確保するために、着用の推進を今後とも図っていただくようお願いをいたします。

以上で一般質問を終わります。ありがとうございました。

○鈴木富美子議長 ここで暫時休憩いたします。

再開は午後1時といたします。

午前11時59分 休憩

午後 1時00分 再開

○鈴木富美子議長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

鈴木一則議員の質問

○鈴木富美子議長 順位3番、議席番号6番、鈴木一則議員。

(6番鈴木一則議員登壇)

○6番 鈴木一則議員 政新長井の鈴木一則です。よろしく願いいたします。

お盆が過ぎ、夕食の頃、どこからともなく、お祭りの練習でしょうか、太鼓の音が聞こえてきます。いつもの9月議会では話題にはならないのですが、今回はちょうど集落の神社の例大祭が週末ごとに行われる季節と重なりました。今年は新型コロナ感染防止も緩和され、各地でにぎやかなお祭りが開催されそうです。この土日には、地元時庭の豊里神社のお祭りでした。祭りが始まる時期は、日中暑くても夜にはぐっと涼しくなり、秋だなと感じたものですが、今年の夏は夜でも熱帯夜が続き、エアコンが離せない状況が続いています。

気象庁は昨日、今年の夏を異常な気象状況という表現を使いました。異常気象ということも、予測がつかないということでもあります。いつ何どきでも対応できるようにしておくことと思います。まだ猛暑傾向が続く予報ですので、まだまだ注意が必要のようです。

私の質問は3点です。よろしく願いいたします。

最初の質問は、新潟山形南部連絡道路の整備についてお伺いをいたします。

新潟山形南部連絡道路は、新潟県村上市を起点に、山形県高島町に至る延長約80キロメートルの地域高規格道路で、現国道113号が新潟、山形、仙台を結ぶ最短経路ですが、災害発生の危険箇所が多く、冬季の交通機能が著しく低下するが代替道路がないという問題を解消するため、バイパス的役割を持つ本道路が計画され、1994年、平成6年12月に計画路線に指定されました。その後の整備は、山形県側が2009年、平成21年3月までに高島町深沼から南陽市竹原ま

での赤湯バイパス区間7.2キロメートルが開通しています。今年度中に梨郷道路、長井市今泉から南陽市竹原間7.2キロメートルの開通が予定されています。新潟県側は平成21年3月、荒川道路3.6キロメートルが開通しました。

また、新潟県関川村金丸から山形県小国町松岡間の小国道路が平成30年度に整備区間に指定され、平成31年度に事業着手し、現在整備が行われています。山形県側で残っている飯豊一小国間の整備は、調査区間格上げの動きがないまま現在に至っていましたが、今年度の国土交通省の公共事業予算の格付で、新潟山形南部連絡道路の小国―飯豊間の概略ルート・構造の検討着手されるという報道がございました。

昨年8月の豪雨災害で小国町が一時孤立化する事態となったこと、東日本大震災時には防災、物流に大きな役割を果たすなど、未整備区間の早期事業化は念願でありましたので、私は構想路線から整備区間指定への格上げであり、全線整備のスタートラインにたどり着いたと思いましたが、この概略ルート・構造の検討着手に至ったことについて、市長はどのようなお考えをお持ちか、お伺いをいたします。

なお、8月24日に国土交通省の社会資本整備審議会道路分科会の第1回東北地方小委員会が開催され、小国町沼沢と飯豊町手ノ子を結ぶ小国―飯豊間11キロメートルが、ルート概要などを決定する計画段階評価に入ったとの報道がございました。私の質問の通告後でしたので、質問の先の内容に進んでしまった感がありますが、よろしく願いいたします。

次に、最上川水系流域治水プロジェクトについてお伺いをいたします。

昨年8月3日の豪雨災害で甚大な災害となった飯豊町の小白川地区では、応急的な復旧から本格復旧に向け、進み始めました。今年は長井市では豪雨には見舞われていませんが、九州や山陰地方では台風により甚大な被害となり、秋

田県でも豪雨により秋田市街地で内水被害が発生し、都市機能が失われる甚大な被害となりました。今年の梅雨の時期は降雨が続き、梅雨明けから一転猛暑が続く現象は、いつ、どこで、どのような災害が起こるか予想のつかない異常気象となっています。

令和2年7月の豪雨災害により、最上川水系を中心に山形県の風水害としては過去最大の被害を受けたことから、国、県、市町村間の連携による流域治水に取り組み、治水対策、最上川水系流域治水プロジェクトを進めています。また、置賜地域で発生した昨年8月の出水による甚大な被害が発生したことを踏まえ、再度の災害防止のため、最上川上流（置賜地域）緊急治水対策プロジェクトを策定し、治水対策を進めています。

このことから、次の質問をいたします。

1つ目、令和2年度に、国、県、市町村等で構成する最上川流域治水協議会が設置され、最上川水系流域プロジェクトの治水対策が進められてきていますが、主な対策事業と推進状況はどうか、建設課長にお伺いをいたします。

2つ目、昨年の8月豪雨により置賜地域は洪水等による甚大な被害が発生したことから、最上川流域緊急治水対策プロジェクトが2025年度を目途に進められることとなっておりますが、前出の流域治水プロジェクトで市内の追加された事業は何か、また、事業のスケジュールはどのようになっているか、建設課長にお伺いをいたします。

3つ目、置賜地域全体の河道掘削や狭隘箇所改修で河川断面も改善されますが、この事業で市の最上川の治水対策の当面の懸念事項は改善されると考えるかどうか、市長にお伺いをいたします。

次に、地球温暖化の影響と言われる猛暑の状況を踏まえ、公共施設、災害避難所施設へのエアコン等の設置についてお伺いをいたします。

今年の夏を表現する言葉が猛暑、酷暑、激暑、極暑、しまいには災害級の暑さと様々表現されるほどの暑さとなりました。猛暑日も県内各地で記録が更新となり、山形市では昭和4年の19日を94年ぶりで更新、米沢市では1994年、平成6年の16日を超える猛暑日となっています。

さて、このような猛暑の影響で、米沢市の中学生が部活動後、熱中症と思われる症状で帰宅途中に倒れ、亡くなられました。ご冥福をお祈りいたします。

また、先週には、山形市内の中学校で体育祭練習中に生徒13人が熱中症の症状で病院に搬送されるなど、日常の活動にも大きな影響をもたらしています。

市内中学校の体育祭が先週25日に予定されていましたが、県教育委員会の要請もあり、長井南中学校は9月に延期、長井北中学校は冷房設備のある体育館で種目を縮小し実施したようです。連日の暑さの中での練習で生徒も疲れているようでしたので、よい判断だったと思います。

熱中症と思われる症状で亡くなった方、事故や体調を崩された方など大変多く、厳しい夏になりましたが、まだ暑さは続く予報ですので、体調管理には十分な配慮が必要です。10年ぐらい前までは、学校や市役所はじめ公共施設も、冷房施設は経費の節減などから設置が進みませんでした。私の経験ですが、長井市役所の公用車やスクールバスも冷房がついてる車から冷房を外すという時期もありました。時代の変革や東日本大震災での避難所の在り方などから、いち早く全校の教室各室、主な公共施設への設置や補助など、県内で最も早く取り組まれた市長の判断に感謝いたします。

そこで、次のことをお伺いいたします。

1つ目に、米沢市の中学生の死亡事故を受け、教育長から、猛暑日における児童生徒の安全確保を最優先とした部活動等への対応についての通知が各学校長宛て通知されています。速やか

な対応と思います。ただ、部活動は、学校だけでない実情があるようです。市内小・中学校の体育館はエアコンが整備されていますから、そこでの活動は安全と思いますが、学校外のエアコンのない場所で練習する部活動の移動対応や施設利用時の対応は確認ができていますでしょうか。学校教育課長にお伺いをいたします。

2つ目、市内各コミュニティセンターや市民体育館等は、日中はもとより夜間の利用も多くあり、多くの市民の活動場所となっています。夜間は虫が入るため、室内が暑くても窓を開放できず利用されている事例も多々あるようです。市内公共施設に、熱中症予防の指標となる暑さ指数を示す専用機器、WBGT計測器を設置し、管理するとともに、利用者への注意喚起など周知すべきと思いますが、地域づくり推進課長にお伺いをいたします。

3つ目に、エアコン設置が完了した小・中学校を除く市内の公共施設は、災害時の避難所に指定されている施設も多くあり、エアコンの未設置の部屋もまだあるようです。また、市内に避難者が多く利用すると考える体育館や多目的ホールにはエアコン未設置箇所があるので、緊急防災・減債事業債などの有利な財源により、早期の設置を進めていただきたいと思います。市長にお伺いをいたします。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 鈴木一則議員のご質問にお答えいたします。

議員から、大きく3項目にわたりましてご提言、ご意見をいただきました。

まず最初に、新潟山形南部連絡道路の整備についてということで、私へは、(1)の今年度の国交省の公共事業予算の箇所づけで、新潟山形南部連絡道路の小国一飯豊町間の概略ルート・構造の検討着手されるということになった

と、構想路線からの格上げと考えるがどうかというようにご質問でございます。

はじめに、鈴木一則議員からは詳しくこの新山道についてはお話がございましたが、平成6年に計画路線に指定されて、現在は荒川道路、赤湯バイパスが開通して、工事を行っているのは鷹ノ巣道路5.0キロと梨郷道路7.2キロでございますが、これが今年度開通予定でありまして、小国道路12.7キロメートルが事業中ということで、新潟県側の6市町村、それから山形県側の8市町の沿線自治体と商工会議所、商工会で同盟会が組織され、整備促進に向けて国への要望活動やパネル展等の事業活動が展開されております。

国土交通省は、令和5年度の公共事業予算の配分、箇所づけの中で、小国一飯豊町間については概略ルート・構造の検討を進めることを発表しました。これは新規採択時評価の前の段階である計画段階評価を進めるための調査であり、地域においても大きな喜びを感じているところでございます。この結果は、新潟山形南部連絡道路建設促進期成同盟会をはじめ関係団体、地域の住民が、国や関係機関に対し多年にわたり要望を続け、地域が掲げる将来展望を国に認めていただいたものと認識しております。今後は、地域の課題や達成すべき目標、地域の意見等を踏まえながら複数案の比較、評価を行うとともに、事業の必要性及び事業内容の妥当性が検証され、道路計画を進めることになるということになります。

国道113号線の沿線地域は、交通事故や冬期間の通行障害、さらには大規模な自然災害等が発生した際は広域迂回を強いられ、令和4年8月3日から4日にかけて発生した豪雨災害では置賜地域に甚大な被害をもたらし、特に被害が大きかった飯豊町内の国道113号では一部が崩壊し、小国町一飯豊町間と関川村内で通行止めになるなど、小国町が一時孤立状態となりました。

た。こうしたことから、沿線地域からは、激甚化、頻発化の災害に備えるとともに、物流の高速化、安全性を図るため、リダンダンシーを確保することが、その必要性が強く求められていますので、このたび小国一飯豊間について概略ルート・構造の検討が進められていることは、国道113号線とのダブルネットワーク構築に向けて一歩前進したと考えております。

本市においては、長井南産業団地の整備による新たな雇用とにぎわいの創出、あるいは、やまがたアルカディア観光局による地域連携DMOを中心とした観光地域づくりを推進していくため、高規格道路の整備による道路ネットワークの形成は、欠かすことのできない重要事業であります。

加えて、国道348号の高規格化については、置賜地域と中核市山形市を直結する南東の斜め軸道路として広域的な経済、生活圏を形成するために重要であり、また、令和5年度の供用が目標とされている東北中央自動車道、山形PAスマートインターチェンジは、今後さらに広域物流の効率化とアクセス向上による観光振興が図られます。地域経済への活性化、住民の安全安心な生活を営む生活基盤の基礎となる道路整備について、今後も引き続き関係団体と連携を取りながら、国、県に積極的に要望してまいりたいと思います。

続きまして、2点目でございますが、最上川水系流域治水プロジェクトについてのご質問でございますけど、私のほうからは、(3)の置賜地域全体の河道掘削や狭隘箇所の改修で河川断面も改善されるが、この事業で市の最上川の治水対策の当面の懸念は改善されると考えるかというお尋ねでございます。

はじめに、最上川水系流域治水プロジェクトは、近年の気候変動により想像を絶する甚大な水害が頻発する今、河川管理者だけでなく、国、県、市町村、住民や企業など、流域（雨水が川

に流れ込む範囲）全体が手を合わせまして、激甚化、頻発化する水災害被害を軽減させる流域治水への転換が重要であるとの認識に基づき、令和2年9月に最上川流域治水協議会が設立され、最上川水系流域治水プロジェクトは令和3年3月に公表されました。事業区間は令和2年から令和11年までの10年間で、事業費は約1,790億円、うち緊急治水対策プロジェクトが約656億円、国の通常の河川改修が約640億円、県の治水対策約500億円です。令和2年7月の豪雨と同規模の洪水に対して、氾濫を防止し、流域における浸水被害の軽減を図るため、河道掘削や堤防整備等のハード対策に加え、マイ・タイムライン講習会や防災講座等のソフト対策が行われております。

また、最上川水系流域治水プロジェクトは令和5年3月に更新されまして、令和4年8月出水の、再度災害防止に向けて、令和4年12月に策定された最上川上流（置賜地域）緊急治水対策プロジェクトが追加されました。最上川上流（置賜地域）緊急治水対策プロジェクトは、事業期間、令和4年度から令和7年度までの事業費は約102億円で、国約21億円、県約81億円で、置賜地域において、国、県、市町村が連携して河道掘削、堤防整備調整池等の取組を集中的に実施し、流域における浸水被害の軽減を図るための計画でございます。

過日、7月1日に、本市において最上川上流（置賜地域）緊急治水対策プロジェクト着工式が開催されまして、最上川上流置賜地域で治水対策が本格的に開始されました。今後、地域特性を踏まえた河川整備と、農業や土地利用と連動した治水対策が推し進められる予定で、氾濫を防ぐ、減らす対策として、白鷹地区で約2万立方メートル、川西・南陽地区で約12万立方メートルの河道掘削を進めるほか、高島町が2,000立方メートルの内水調整池、川西町が準用河川の堤防整備と河道掘削などが行われ、本

市においても河道掘削や田んぼダム整備が予定されております。

最上川水系流域治水プロジェクトでは、流域全体で今後取り組んでいく中・長期的な治水対策及びロードマップが示されており、令和7年度までに家屋浸水等での重大災害の発生を未然に防ぐため、堤防の整備や水位低下を目的とした河道掘削等を実施することで、令和4年8月洪水を踏まえた再度災害防止対策を完了予定とし、令和11年度までに流下能力不足解消のための河道掘削や堤防強化等を実施することで、令和2年7月豪雨を踏まえた再度災害防止対策を完了する予定としており、令和12年度以降も河道掘削や雨水幹線・貯留施設整備等を実施するとともに、農地・農業水利施設や雪対策と連携した流出抑制、内水被害軽減等の対策を進める計画でございます。

令和5年7月28日に山形河川国道事務所のご協力によりまして、令和5年度最上川流域治水勉強会が開催されました。この勉強会は、最上川上流（置賜地域）で今後実施していく流域治水の取組を置賜3市4町の首長が連携して、どのように実効的な取組を展開していくかなどについて意見交換を行うことを目的とした勉強会です。このたびの勉強会では、ヘリコプターにより上空から約123キロ移動し、沿川の地形状況調査をいたしました。最上川の特徴的な狭窄部と盆地を繰り返す地形を改めて知る機会となりました。各市町での河川掘削や河井山狭窄部、荒砥狭窄部、内水調整池の整備を進め、上流域と下流域で河川を安全に流下させ、流域における浸水被害の軽減を図られるよう、今後も継続して国、県と連携して事業に取り組んでまいります。

最後でございます。3点目でございますが、地球温暖化の影響と言われる猛暑の状況を踏まえ、公共施設、災害避難所施設のエアコン等の設置についてでございますが、私へは、避難者

が多く利用すると考える体育館や多目的ホールにはエアコン未設置場所があるので、早期の設置を進めていただきたいというような要望でございます。

災害時の避難所に指定されている小・中学校を除く公共施設につきましては、主に中央地区を除く各地区コミュニティセンターが該当するかと思います。コミュニティセンターについては、令和3年度に新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、また、避難場所として活用を予定している部屋等にエアコンを設置し対応している状況でございますが、体育館や多目的ホール等は設置費用及び電気代が高額になるため、設置を断念した経緯があります。

以上のことを踏まえ、エアコン未設置の部屋については、状況を確認しつつ、対応できるところはしてまいりたいと考えます。また、体育館や多目的ホール等の大規模な工事が必要な施設につきましても、将来的に設置を検討していかなければならないと考えておりますので、次期の公共施設等整備計画と併せて検討してまいります。

○鈴木富美子議長 佐原勝博建設課長。

○佐原勝博建設課長 私のほうには、項目2番、最上川水系流域治水プロジェクトについて2点ご質問いただいておりますので、お答え申し上げます。

最初に、(1)の令和2年度に国、県、市町村等で構成する最上川流域治水協議会が設立され、最上川水系流域治水プロジェクトの治水対策が進められてきているが、主な対策事業と推進状況はという質問にお答えいたします。

最上川水系流域治水プロジェクトでは、氾濫をできるだけ防ぐ対策、被害対象を減少させる対策、被害の軽減、早期復旧、復興のための対策の3つの対策によりまして取組が進められております。

主な事業といたしましては、国、県による河道掘削や堤防整備、水田貯留、ため池の活用と、市が実施いたします防災拠点等の整備、マイ・タイムラインなどの防災教育の促進などがあります。

推進状況につきましては、令和5年3月現在、国の事業では、最上川中流、上流を中心に約8キロメートルの堤防整備と、全体で約90万立米のうち3割の約24万立米の河道掘削が完了しているところでございます。本市におきましては、令和5年度に道の駅及び諏訪堰付近の最上川での河道掘削と支障木伐採が行われる予定になってございます。また、県の事業では、置賜野川の延長1.8キロメートル区間、草岡側の延長800メートルの区間で堆積土のしゅんせつや支障木伐採が行われているところでございます。

また、マイ・タイムライン講習会等のソフト事業につきましても流域全体で開催されており、本市では、令和3年度に館町南、館町北、そして令和4年度では自主防災組織など6団体で開催しているところでございます。自主防災組織では、令和4年8月の豪雨災害を教訓に、タスパークホテルを会場に約60名の方にご参加いただきました。令和5年度は川窪での開催を予定しているところでございます。

次に、(2)の昨年8月豪雨により置賜地域は洪水等により甚大な被害が発生したことから、最上川上流緊急治水対策プロジェクトが2025年度をめどに進められることになった。流域治水プロジェクトから市内で追加された事業は何か、そして事業のスケジュールはどのようになっているかのご質問にお答えいたします。

最上川上流（置賜地域）緊急治水対策プロジェクトにつきましては、先ほど市長から答弁あったとおりでございます。この緊急治水対策プロジェクトにつきましては、さきの最上川水系流域治水プロジェクトのほうに追加されまして、取組のさらなる推進のために取り組み状況マッ

プを作成し、今後もプロジェクトの充実を図りながら更新を行う予定になってございます。

本市におきましては、県の事業であります長井地区治山事業が追加されました。令和4年8月豪雨により山林の倒木が発生し、河川・水路を塞ぎ、氾濫を招いてしまう原因となったところでございます。被害の大きかった箇所、もしくは平成25年、平成26年、令和4年の豪雨で繰り返し同一箇所が被災している箇所を重点といたしまして、寺泉1か所、川原沢2か所、草岡3か所の合わせて6か所につきまして、令和5年度に治山ダム建設に向けた長井地区山地災害重点地域総合対策事業といたしまして、航空測量による測量設計が行われております。令和4年度から治山ダム建設工事が予定されておりました、現在、建設工事が行われております出来ヶ沢、戸根林沢の砂防ダム事業等と併せて治水対策が進められる予定になってございます。

また、本市といたしましても、公共下水道事業計画により、令和4年度までに雨水出水浸水想定区域図を作成いたしまして、それを基に内水浸水リスク情報を住民等に的確に伝達し、適切な避難行動を促すために必要なソフト対策のほか、浸水対策に向けて効果的なハード整備、例えば内水氾濫が想定されるエリアに貯水池を整備するなど、検討を進めてまいりたいと考えているところでございます。

○鈴木富美子議長 新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長 私の方には、問3の猛暑対策として、(2)市内公共施設に暑さ指数測定器を設置し、利用者への注意喚起など周知すべきと思うが、どうかということで質問いただきました。

熱中症につきましては、気温と湿度が高いほど発症のリスクが高まっておりますが、視覚的にリスクが高いどうか分からないことなどから、特に子供などについては、活動に夢中になるあまり、感覚的に、これくらいならまだ大丈夫だ

ろうと、つい無理をしてしまうケースがあるのかと思います。また、高齢者につきましては、温度に対する感覚が弱くなっていたり、あと暑いと感じにくくなったり、あるいは喉の渴きを感じにくくなったりすることで、熱中症にかかりやすくなると言われております。といったことから、熱中症のリスクを見える化することについては、今後も毎年夏に頻発するであろう猛暑対策を考える上で、欠かせない要素の一つであると感じております。

さて、鈴木議員のほうから提案いただきました暑さ指数測定器の設置や注意喚起の取組につきましては、市内コミュニティセンター利用者の健康と安全を確保するために非常に有効な対策だと感じております。暑さ指数を視覚的に提供し、利用者に熱中症予防の重要性を周知することで、安心して施設を利用できる環境を提供できるかと思っております。この計測器につきましては、価格が大体数千円ぐらいと比較的安価に購入できるようですので、熱中症予防対策といたしまして長井市コミュニティ協議会と調整いたしました。協議会本部のほうで早速購入していただきまして、先週の8月23日に各コミュニティセンターに2個ずつ12個配置したところでございます。

○鈴木富美子議長 横澤聡一学校教育課長。

○横澤聡一学校教育課長 私のほうから、校外で練習する部活動の移動対応や施設利用時の対応についてということでお答えさせていただきます。

まずはじめに、猛暑日における市内小・中学校の対応の現状についてご説明させていただきます。

学校施設については、体育館や武道館等を含め、エアコンの設置により熱中症の予防を図るための有効な手だてが取られております。市として、エアコンの設置を進めていただき、児童生徒の体調に配慮しながら教育活動が進められ

ていること、大変ありがたく感謝しておりますところでございます。

今年度は、春先より暑い日が続き、5月18日、7月6日にも熱中症予防の注意喚起を委員会として小・中学校へ行ってきた経緯がございます。また、7月中旬から今まで連日の猛暑による暑さ指数の上昇により、運動会などの学校行事や外での活動、部活動など、教育活動を見直す場面も多々ありました。登下校も含め危機管理、安全管理の徹底を図るため、教育活動時間帯の見直しやエアコンの積極的な活用、また、夏季休業中のプール開放時や部活動の登下校についてもスクールバスの臨時的な活用等も対応として図ってきたところでございます。今後も、暑さ指数やガイドライン等を基にしながら、児童生徒の命を最優先に考えた教育活動の実施について各校に指導、周知してまいりたいと考えております。

公共施設によっては、エアコン設置がない施設がございます。その中で、中学生が部活動で利用する場合がございます。そういった施設を利用する際には、暑さ指数WG B Tを基にしつつ、場合によっては活動を自粛することもやむを得ないということで活動を計画し、対応しているところでございます。また、登下校や移動の際の熱中症の心配もございますので、複数での移動を今後も基本とすることや、異常がある際には、近くの民家やこども110番連絡所などもありますので、一時避難をさせていただくなど、各校でも子供たちに今指導していただいているところです。

○鈴木富美子議長 6番、鈴木一則議員。

○6番 鈴木一則議員 それぞれ答弁いただきまして、ありがとうございます。

市長に答弁でも触れていただきましたけど、今回の飯豊一小国間そのものの計画というのが、結局、公共事業の抑制の段階でもう頓挫したような状態で経過して、ようやくという思いがす

ごく強くて、多分市長もそういうふうにもわかれてると思うんですけども、その後、いわゆる新産業団地、それから国道348号線の高規格化と、この新山道を活用した形で長井市の発展に向けていろいろご提案をいただいていることに本当に敬意を表したいと思います。

ただ、以前から市長も言われた長井の特性といますか、仙台と新潟80キロずつの中間というメリットを生かしていきたいという部分で、長井市の施策として将来に向けて非常に明るいものがあるんですけども、やはりこの新山道の飯豊町から先の部分のつながっていないという影響は、後々、遅くなればなるほど影響というのがあるなと思って心配をしているところでした。ですので、今回、小国―飯豊間といっても、結局、松岡―沼沢間、それから手ノ子―今泉間の部分はまだ手つかずなので、その部分を何とか、期成同盟会の手段しかないのかもしれませんが、進めていただきたいなと考えているところです。

このような高規格道路の完成まで20年、30年という期間がかかりますので、このいわゆる課題意識や、それから国交省のほうの課題意識が熱が冷めやらないうちにぜひとも進めていただきたいと思っておりますが、そこら辺、お考えがございましたらご答弁をお願いします。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 置賜の中で高速道路の30分圏内という見方が県のほうでされてるようなのですが、それは白鷹町だけで、長井市は入ってることなんですか、かすってるだけですかね、梨郷道路も。ですから私は、この間、市長にならせてもらってから16年、17年間この活動をしてるんですが、小国町が事務局ですので、ちょっと考え方が違うので、非常にやりにくいなと思ってます。

結局、13市の中では高速道路が通ってないのは長井市だけですので、そのところをもう少し

しやはり、議会もそうなんですけども、道路のことでいろいろ議論というのは本当少なくて、287号線の西廻り幹線道路という言い方がずっとあったんですけど、あれは何のことはない単なる規格の高い道路で、高速道路ではありませんので、なおかつそれについては完全にもう不可能だと烙印を押されてしまいました。

ですから、本来であれば348号線と287号線というのは長井市の今泉から荒砥まではダブってるわけですから、そのところを私ども、もう少しこの348号線という形でうまく活用していかないと道は開けないなと思っておりまして、今回の長井南産業団地、新産業団地を整備するに当たって、またとない機会だと思ってるんですが、ちょっと私どももう少し運動していかなくやいけないんですけども、新山道のほうの事務局で多分全く関心ないでしょうから、そういったところは、どうなんだろうなど。確かに今度は新潟側のほうから小国道路は来てるわけですよ。ですからやり方としては、梨郷道路が今度は今泉道路ということで飯豊町のほうに延びていくのが筋なんですけども、事務局がありませんので、その辺のところは、働きかけというのはあるんでしょうけども、ちょっと私はピンとずれてるんで、小国町さんと話しても、なので、厳しいなと思っていますところ。

ただ、飯豊町のところを何とか早く、調査も今までされてなかったんで、今度はダブルネットワークになったので、今までみたいに調査区間、計画区間、事業区間というような、そういうステップじゃないというんですね。ですから、もうそんなこと抜きに必要なものはどんどん進めるという考え方なんですけども、そこには、その道路の市町村間の連携と、あるいは県同士の連携、それからやはり地元国会議員のほうにお願いしてどんどんリーダーシップ取っていかないと、どうなんですかね、長井市はこのままでいったら唯一高速道路に恵まれないまち

になるんだろうと思っておりますので、危機感を持ってやりたいんですが、やり方が難しいというのが心情でございます。ぜひいろいろとご助言などいただければと思います。

○鈴木富美子議長 6番、鈴木一則議員。

○6番 鈴木一則議員 まさしく市長がおっしゃったとおり、以前、事務局を持っていたときは全線を一気にということでしたが、細切れの状態になって事情が変わったんでしょうけども、結局、今、小国町が事務局という形で、どちらかというと、小国町は小国に新潟から来てくればいいという、そういうような感覚になってるような気がしてなりません。

それを守護するには、私は348号線の高規格化だと思います。前面に長井市はそこを押し出して、山形市長も会長になっていただいでるんで、斜め道路といいますか、そちらからプッシュしてやっていくというのも1つ手法としては長井市のやり方としてあるのではないかと思いますので、これから私たちも事あるごとにまずその348号線の高規格化というのを主に注意を向けていきたいなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それから、最上川の関係につきましては建設課長のほうにお伺いします。

素人考えで考えても、上流の今回のプロジェクト、川西町の掘削土量とか、それから河川のしゅんせつを考えると、やはり上流側の流下速度があって流量も一気に来るといったイメージがすごい強いわけですね。そうすると、受皿というのになる長井市部分って本当にちゃんとできてくるのかなという心配がすごくあって、今回プロジェクトの中身をずっと調べても、具体的な長井市の区間の画期的な分が何もないというやっぱり疑問があったので、今回質問させていただきました。

特に、私、以前から懸念をしてるのは、前にも建設課長に議会でもしゃべったことあるんで

すけども、いわゆる諏訪堰のあそこが5メートルほど高くなってるために、結局あそこで停滞するんですよ、どうしても。そうすると、内水の部分が押せない、いわゆる断面積もないという状況なので、その部分は、もっともっと積極的に河川国道のほうに、断面を増やして結局滞留をある程度確保するという方策をアピールしていく必要があるんじゃないかと私は、自分の考えでありますけども、建設課長、どう思われますか。

○鈴木富美子議長 佐原勝博建設課長。

○佐原勝博建設課長 最上川水系流域治水対策プロジェクトのほうでは、流域全体で検討を行うとしておりまして、上流、下流の整備においてしわ寄せが発生しないように事業を進めるということが大前提になってございますので、今後関係する団体と調整を密にしながら連携を図り、そういった上流、下流において均衡が取れるように整備を進めていきたいということで、県、国のほうにお願いしていきたいと思っております。

○鈴木富美子議長 6番、鈴木一則議員。

○6番 鈴木一則議員 先ほど答弁の中で、県の事業の中で、いわゆる支流といいますか、そちらのほうの県の事業が入って治山事業とか入るといったことで、大変よいことだなと、ようやく腰を上げていただいたという感じがいたします。当然ながらそれでいわゆる水害が減るわけではないのですが、少なくとも危険度合いが少なくなるという部分でいえば、地域の皆さんも非常に安心感が増すのかなという感じしておりますけども、今、本流内の河川のプロジェクトの中で伐採などを進めていただきますので、ぜひしゅんせつの部分も強力に押しつけていただいて改善をしていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

あと、エアコンの関係、先ほど市長から前向きにご答弁いただき、ありがとうございました。

今回の猛暑で暑さ指数、初めて私も、いろんな大会なんかに行って、事務局がもうびりびりしながらやってるということなんですけども、山形県内でエアコンで公式大会をすることが可能な場所というのがもう限られているんです。山形市のスポーツセンターと県の総合運動公園、それから酒田市の国体記念体育館、それから天童市が改装したので天童市のスポーツセンター、それと、鶴岡市はエアコンだと思ったんですけど、これは送風だけだという話でした。こう見ると、やっぱり県内の様々な中体連、高体連で活動する場所の中で、今はもうエアコンが当たり前という部分が非常に多くなっておりまして、中学生、高校生の参加される生徒さん等も、やはりそういう対応といいますか、当たり前だんだんになっていくんだろうなどは、長井市にとっては非常にいいことですが、逆に言うと、エアコンのないところで戦うのは大変なことだなという思いもします。

そのようなことがあって、学校教育課長には、この時期ちょうど中体連、それから東北に行く東北大会、夏休み前から夏休みにかけて、それから運動会、地区の行事、もう様々つながりがあって動かせないものもあるんだと思うんですけども、ある記事を読みましたら、やはりこの時期に集中する部分、年間の事業の中で振り分けをもう一度考え直すべきでないかという意見の記事も見させていただきました。毎年毎年このような暑さが続くということを考えると、当然ながら学校行事の振り分けというのも課題として上げられるのではないかと私は考えるんですけども、最後に学校教育課長の考え方、ちょっとお伺いしたいと思います。

○鈴木富美子議長 横澤聡一学校教育課長。

○横澤聡一学校教育課長 今、鈴木議員がおっしゃったことは、そのとおりだと思います。現に今回の運動会等についても、前日まで非常に検討したところでした。その結果、延期、あとは

室内でということがありましたけれども、トータル的に今後の教育活動、行事等についても見直し等も含めて来年度に臨んでいく必要があるということで、今度、校長会も開かれますので、早速その折に、来年度の検討ということで委員会のほうからも周知していきたいと考えております。

○鈴木富美子議長 6番、鈴木一則議員。

○6番 鈴木一則議員 大変な猛暑といえますか、昨日、おとといは約30度前後で、久しぶりに何か涼しい感じがしましたが、また今日も34度ぐらいということで非常に環境が変わってることと、私もスポーツ少年団を預かってますけど、子供たち、慣れてないというか、体を壊しやすいということがすごく目立ちます。以前のように、塩をなめて頑張れ頑張れ、水を飲むなと言われた時代とは全然違うなという思いがありますが、やはりもう世の中の考え方も変えていかないと、こういういろんな新しい課題がどんどん出てくるんだという、この対応も大変だなと思いつつ今回質問させていただきました。

以上で質問を終わります。

内谷邦彦議員の質問

○鈴木富美子議長 次に、順位4番、議席番号9番、内谷邦彦議員。

(9番内谷邦彦議員登壇)

○9番 内谷邦彦議員 政新長井の内谷邦彦です。災害対策に関して伺います。明確な答弁をよろしく願いいたします。

7月28日3時にフィリピン東で発生した台風6号は、8月2日から3日にかけて大型で非常に強い勢力で沖縄地方にかなり接近し、その後、西に進み、東シナ海でほとんど停滞した後、進路を東に変えて、ゆっくりとした速度で再び沖縄や奄美に接近した。沖縄や奄美を通過後は、